



市長と語ろう

令和5年 1 月



タウンミーティング



は じ め に

市民の皆さんにおかれましては、平素より本市の市政運営に多大なる御理解と御協力をいただきまして、誠にありがとうございます。



新型コロナウイルス感染症が拡大する中、これまで本市では、市民の皆さんが安全で安心して日々の生活を送れるよう、陽性者等への1日3食の配食サービスの実施、水道料金(基本料金)の免除、小中学校、保育所等の給食費無償化など、市民の命と生活を守る取組を積極的に進めてまいりました。

また、市民を第一に「市民の事情」に寄り添った市役所として、仕事前、仕事終わりにも手続きができる8時から20時までの「12時間開庁窓口」の実施、利便性の高い市駅前に、中央図書館の開設など、市民サービスの充実につながる様々な取組を進めているところです。

一方、社会情勢の変化等により、地域課題は複雑・多様化しており、これらに適切に対応するためにも、市政の責任者である市長が市民の声を直接お聴きすることは、極めて重要であると考えております。

今般、コミセンエリア単位でタウンミーティングを開催したところ、コロナ禍の開催にもかかわらず、総勢334人の方に御参加いただき、よりよいまちづくりに向けた様々な御意見をいただきましたこと、感謝申し上げます。

引き続き、市民の皆さんの声をしっかりお聴きし、市内外から、住みたい・住み続けたいと感じて頂ける「選ばれるまち」の実現に向け、職員一丸となって取り組んでまいりますので、市民の皆さんの御理解と御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和5年1月

寝屋川市長 広瀬慶輔

目 次

I	開催概要	1
1.	目的	2
2.	開催日程・参加人数等(令和4年度)	2
3.	参加対象者	3
4.	頂いた御意見の活用	3
5.	市長からの寝屋川市の現状等の説明内容(各回冒頭)	4
II	意見交換の内容	7
第1回	西南コミュニティセンター	8
第2回	西コミュニティセンター	16
第3回	南コミュニティセンター	24
第4回	西北コミュニティセンター	30
第5回	東コミュニティセンター	36
第6回	東北コミュニティセンター	42
III	参加者アンケート結果	51
IV	参考資料	56
1.	市長と語ろう タウンミーティングPRチラシ	57
2.	当日参加者にお配りした資料	58

I 開催概要

I 目的

市民と市長とが直接対話をする機会を設け、今後のまちづくりについての考えやビジョンを説明するとともに、地域の課題等を把握し、市政運営の参考とするため、各コミュニティセンター地域でのタウンミーティングを実施した。

2 開催日程・参加人数等（令和4年度）

開催日時・場所	参加者小学校区	参加人数・合計	
西南コミュニティセンター （10月19日開催）	啓明	15人	98人
	成美	24人	
	和光	24人	
	神田	24人	
	その他・無回答	11人	
西コミュニティセンター （10月25日開催）	点野	14人	46人
	西	7人	
	桜	7人	
	池田	11人	
	その他・無回答	7人	
南コミュニティセンター （10月27日開催）	木田	15人	56人
	楠根	2人	
	南	16人	
	堀溝	18人	
	その他・無回答	5人	
西北コミュニティセンター （11月8日開催）	木屋	6人	54人
	石津	13人	
	北	14人	
	田井	8人	
	その他・無回答	13人	

開催日時・場所	参加者小学校区	参加人数・合計	
東コミュニティセンター (11月10日開催)	中央	3人	24人
	東	12人	
	明和	2人	
	梅が丘	2人	
	その他・無回答	5人	
東北コミュニティセンター (11月14日開催)	第五	25人	56人
	三井	9人	
	国松緑丘	2人	
	宇谷	5人	
	その他・無回答	15人	

※ 総勢 334 人の方が参加

※ 開催時間は全会場、午後7時から1時間程度

3 参加対象者

寝屋川市在住の方

4 頂いた御意見の活用

タウンミーティングで頂いた御意見については、庁内で共有し、今後の施策・事業を進める上での参考とする。



5 市長から寝屋川市の現状等の説明(各回冒頭)

寝屋川市の課題について

寝屋川市は昭和 35 年から昭和 50 年までに人口が約 20 万人増加した。現在は、当時の新住民がシルバー世代となり、人口の年齢構成に偏りが生じている。

これからもシルバー世代の皆さんが安心して住み続けられるよう、子育て世代から寝屋川市を選んで頂けるまちづくりを進めていく必要がある。

市民サービスのターミナル化推進計画について

現在、市民の皆さんが様々な手続を行う際、市役所本庁や保健福祉センターを行き来するなど、施設間での移動が不便なことから、市民サービスのターミナル化構想を進めている。

令和 3 年度に大阪電気通信大学駅前キャンパスを市が買収しており、今後、駅前庁舎としての活用を検討している。現在、市役所本庁の 1 階で行っている手続を始め、保健福祉センターで行っている子ども関係の健診や保育所の手続関係の部署を駅前キャンパスへ移転させ、空室となった市役所本庁の 1 階部分に高齢者や障害者の手続関係等の部署を集約することを考えている。

駅周辺に市民サービスを集約することで、各地域から公共交通機関一本で来庁でき、ワンストップで手続ができる仕組みを目指している。

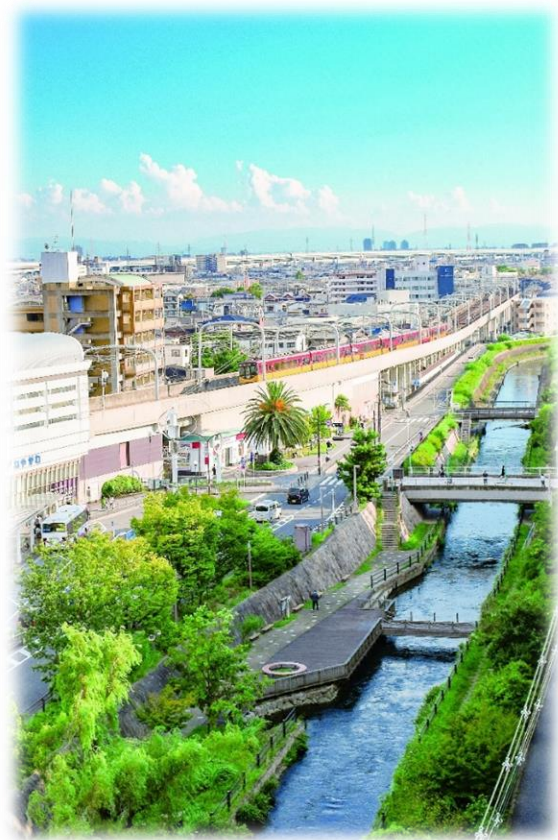
また、市民サービスのターミナル化の一環として、中央図書館を寝屋川市駅前のイズミヤの 4 階へ移転したところであり、既に多くの方に利用頂き、好評の声を頂いている。公共施設の建て替えには、多額の費用が掛かるが、建て替えすることなく、限られた財源を有効活用することで、市民満足の向上につなげている。

子育て世代に選んで頂けるまちづくりについて

子育て世代の皆さんに、寝屋川市を選んで頂くため、様々な取組を進める中、子どもたちの教育環境をしっかりと守ることが重要だと考えている。例えば、子どものいじめをなくすため、学校とは別の部門として、市長部局に監察課を設け、全ての子どものいじめ問題について、学校とは別のアプローチで調査を行い、抑え込んでいくという取組を行っている。この取組は、北海道旭川市から制度導入に向けた視察や NHK でも取り上げられるなど、全国から大きく注目されている。

学校教育について、小学4年生から中学3年生まで週1回のディベート授業を導入し、子どもたちの考える力を育てている。

このようなソフト面の施策をしっかりと行い、寝屋川市の教育をブランド化させていくことで、寝屋川市を選んで頂く魅力の一つになればと考えている。



今後の方向性について

シルバー世代の皆さんがこれからも住み慣れた地域で安心して住み続けることができ、また、子育て世代の皆さんから選ばれる魅力的なまちづくりを進めていくことが、行政に与えられた大きな役割と考えている。

限られた財源の中で、しっかりとまちづくりや経営の視点を持ち、市民の皆さんの満足につながるまちづくりを進めていく。



(仮称)駅前庁舎

〔(旧)大阪電気通信大学駅前キャンパス〕

Ⅱ 意見交換の内容

第1回 西南コミュニティセンター



河川の管理について

【市民】

市が河川の草刈りを定期的に行っているが、大阪府の管理地については対応してもらえない。大阪府と共同して対応することはできないのか。また、河川の草刈り時にごみも取り除いてほしい。

【市長】

「市の管理地は市が」「大阪府の管理地は大阪府が」それぞれ対応することは、市民の立場からすると「行政の都合」と言われる案件であり、改善が必要だと考えている。市の管理地については、引き続き適切に管理するとともに、大阪府の管理地については、市から申入れを行い、共同して対応できないか調整・交渉する。

ごみの除去については、草刈りを委託している事業者が担うことができないか検討したい。

日 時：令和 4 年 10 月 19 日水曜日 参加人数：98人



空き家について

【市民】

近隣に老朽化が進んでいる空き家があるため、市に相談したが進展がない。市の権限で処分することはできないのか。

【市長】

「老朽危険建築物」として指定した危険な建物は、順次、市の補助制度を活用した除却を促している。倒壊等のおそれがなく、利活用できる空き家については、民間企業の力等を活用し、空き家の活用を進めることで、人口増加や地域活性化につなげていきたいと考えている。

野良猫の避妊去勢手術費用の補助について

【市民】

市内に野良猫の避妊去勢手術を担うことができる獣医が少なく、他市の動物病院で対応してもらっている。市の補助金では足りない費用や病院までの移送費については自己負担となるため、より一層、市補助金の拡充はできないのか。

【市長】

過去と比較すると、徐々に補助の拡充を行ってきている。一方、現状として足りない金額を団体が支払っているケースがあると聞いている。市はできる限り市内動物病院での手術対応を考えており、市保健所を通じ市内動物病院で避妊去勢手術の対応ができないか協議していきたい。

公共施設の駐車場等について

【市民】

駅前庁舎に駐車場や中型バイク等も止められる駐輪場を設置する予定はあるのか。保健福祉センターに車で来庁した際、障害者等の支援が必要な方でも対応できる環境を整備してほしい。

【市長】

駅前庁舎の駐車場については、周辺の駐車場を無料で利用できるよう準備を進めている。駐輪場については、現在の市役所本庁における利用者の利用実績を集約しており、幅のある自転車、中型バイク、原動機付自転車が止められるような駐輪場を検討している。集約したデータを利用しながら、それぞれのニーズに合わせて設計したいと考えている。

保健福祉センターについては、総合センターが工事中のため、御不便をおかけしているが、高齢者や障害者の方が乗り降り、待機できるスペースがある。

高齢介護室や障害福祉課については、駅前庁舎の開設と合わせて、広い駐

車場が確保でき、窓口までの距離が近い現在の市役所本庁の 1 階への移転を検討している。

学校の熱中症対策について

【市民】

中学校の子どもが体調不良のため、プール授業をプールサイドで見学することになったが、真夏であったにもかかわらず、日陰のない場所だったと聞いた。また、運動会では熱中症により救急車を呼ぶ事態になったと聞いている。学校側に熱中症対策の知識や危機管理が十分でないと感じた。

【市長】

各学校の運用については、学校長が決定する仕組みのため、直接的な指示はできないが、教育委員会に柔軟な対応ができるよう伝えておく。

マスクの着用について

【市民】

新型コロナウイルス感染症対策を緩和し、小学生のマスク着用を無くすることはできないのか。

【市長】

現在の小中学校の対応は国と大阪府の通達に基づき行っている。新型コロナウイルスは指定感染症 2 類に該当することから、市が単独で感染症対策を緩和することは難しい。

一方、マスク対応については、教育委員会から学校に対し、子どもの体調面等の事情を考慮し、柔軟な対応をするよう指示をしている。

※ 市長の回答内容は、タウンミーティングを開催した令和 4 年 10 月又は 11 月時点のもので、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けは 2 類に指定されている状況

乗合い事業について

【市民】

現在の乗合い事業のシステムでは、利用できない地区の市民がおられ不平等だと思う。同じ市民ばかりが利用し、実際に必要な交通弱者が利用できていないのではないか。

【市長】

本格的な高齢社会が始まる前に、シルバー世代の皆さんが買い物等に不便にならない仕組みを構築することが重要だと考えている。そうした理由から、公共交通の空白地域である3地区（成田地区、仁和寺地区、河北地区）で乗合い事業を社会実験として開始している。

タクシーを自由に使い、駅まで行けたら便利だが、そうすると、民間のタクシーやバス会社と競合することになるため、現在、バス会社等と協議をす
る中で、歩かないで済むような仕組みを検証している。シルバー世代の皆さんが、病院に通う、買い物をする、その中でも不便を感じないような交通インフラを十分に整備していく必要があり、改善すべき点はしっかり改善しながら、より良い制度となるよう検証を続けていきたい。



河北地区で実施している乗合い事業の案内

地域の見守りについて

【市民】

生活困窮により、電気が止まったため、保護課へ相談にいくも、生活保護を断られたと聞いた。市の見守りの考え方等について教えてほしい。

【市長】

ケアが必要な世帯を見逃すことで命に関わる可能性もあることから、福祉分野や子ども分野の担当課等でデータの共有を行い、保育所や学校からの情報も把握しながら対応している。また、健診等のあらゆる機会で、子どもを観察し、何か異変があれば情報共有できる仕組みの構築を進めている。

生活保護について、コロナ禍の影響を受けて生活保護を受給する世帯は増加している。困窮しながらも生活保護を受給するのは恥ずかしいと思う市民がおられるが、しっかり受けていただくことが重要である。地域の皆さんもそうした目で見守りをしていただけたらと思う。

自治会加入者の減少について

【市民】

自治会の加入率が低く、自治会の加入者だけで地域を運営していくことは難しくなってきたおり、市として何か対策はできないのか。

【市長】

自治会の皆さんが加入案内の際に使用するためのチラシを市で作成しており、現在、自治会への加入促進のために活用いただいている。また、「地域振興とはこうあるべき」といったものを定めることができれば、加入案内する際や継続した自治会運営を進めていく上で、有効な手段になるかもしれない。

現状から少し踏み込んで、地域運営の在り方を検討していきたいと考えている。

市民の集いの場について

【市民】

小中学生の保護者、シルバー世代の集える場所や、小学生が安全に遊べる場所がない。市民が集える施設が中学校区に一つあれば、更により良いまちになると思う。

【市長】

駅前に、子どもや子育て世代が集まれる拠点ともなる子ども図書館の開設を検討している。一つ考えているのは、図書館に限らず、中学生、高校生のための自習室を整備するとともに、遊び場としての機能、保護者が集える場所、こどもセンターの機能等を集約していきたい。こうした拠点を全ての地域に作るのはコストが掛かるため、全体の需要を考えると、ターミナル化の一環として一つにまとめることが最善と考えている。



萱島駅前の広場について

【市民】

萱島駅前の高架下広場のベンチで飲酒し騒いでいる人がおられるなど、子どもが近寄りにくく、他市からの印象も悪い。高架下広場にベンチを設置する必要はあるのか。

【市長】

ベンチについては、既に担当課に撤去を指示しており、令和4年度中には撤去の予定である。一方、駅に来られるシルバー世代の足腰を休める場所も必要だと考えており、ベンチの場所については改めて検討する。

第2回 西コミュニティセンター



地域協働協議会の在り方について

【市民】

地域協働協議会について、社会情勢の変化等により、役員の成り手がいない等の多くの課題を抱えている。持続可能な自治会を目指していくためにも、地域協働協議会の在り方等を考えてほしい。

【市長】

地域コミュニティの持続可能性は重要なテーマだと考えている。

令和4年4月から、地域協働協議会と社会を明るくする運動推進委員会について、地域の実情に合わせて、統合していくことが可能な仕組みを導入した。

地域協働協議会の在り方について議論が深まる中、今後、一定の形に集約していければと考えている。

日 時：令和 4 年 10 月 25 日 火曜日 参加人数：46 人



コミュニティセンターの在り方について

【市民】

市内 6 か所のコミュニティセンターについて、老朽化が進んでいるが、今後のコミュニティセンターの在り方についてどのように考えているのか。

【市長】

市内全域の方が使うものは便利なターミナルに配置し、また、各コミュニティセンターなど地域の方が利用する施設は、機能も含め地域に残していくことが重要だと考えている。

各地域のコミュニティセンターの機能は残しつつ、建物については、複合化していく等の検討余地があると考えている。

例えば、他の公共施設を建て替える時に、同じ敷地内に建設を行うことで、工事のコストが下がり、効率的に土地を活用できることから、有効な手段の一つと考えている。

総合センターの跡地について

【市民】

市内の西側に災害時の拠点となる公共施設がないことから、総合センターの跡地に集会等ができる公共施設を建設してほしい。

【市長】

総合センターの跡地は、一旦更地にし、その後の活用方法については、現在、庁内で検討を進めている。

公共施設については、市内の施設を維持管理してだけで、20年間で約2千億円の費用が掛かると言われている。今後、人口が減少し、シルバー世代が増加していく中で、公共施設を拡大していくのか、場所によっては機能を残しながら集約していくのか、市民の皆さんの負担や利便性と合わせて検討していく必要がある。

そうした中で、総合センターが、以前のような生涯学習の拠点となる機能があればいいと考えているが、施設周辺の地域の方には素晴らしいことでも、市内全体のバランスから見た場合、どの地域からでも行き来しやすい施設を用意していくことも必要だと考えている。

総合センター跡地の活用については、コストを掛けて建物を建設することは考えておらず、例えば、健康づくりのためスポーツができる場所など、コストを掛けずに対応できる施設等も検討していきたい。

バス利用促進事業、乗合い事業について

【市民】

バス利用促進事業について聞きたい。

【市長】

1冊10枚綴りで利用頂ける。

西コミュニティセンターエリアにおいて、特に淀川に接している地域は、

交通の便も悪く、買い物も不便になっている。市としては、地域の方がこれからも住み続けて頂くため、交通の便をしっかりと確保していくことは重要だと考えている。

バス利用促進事業のほかにも、仁和寺や点野の地域では、タクシーを利用して、近くのバス停、病院等へ行ける乗合い事業を実験的に行っている。

バス利用促進事業、乗合い事業をこれからも利用して頂き、様々な御意見を頂くことで、より良い事業に改善していきたい。

対馬江大利線の整備について

【市民】

対馬江大利線については、いつ頃の完成を予定しているのか。

【市長】

令和6年度中の完成を予定しており、沿道も含め、まちの姿は大きく変わっていくと思う。また、寝屋川市駅の西側ロータリーは、かなりの過密状態で、車の乗り降りに不便等の声を聞いている。できる限りコストを掛けずに、西側ロータリーの在り方についても検討していく。



対馬江大利線の完成イメージ

公園について

【市民】

遊具がある小さな公園はたくさんあるが、ボール遊びができる場所が少ないと感じている。子どもが気兼ねなくボール遊びができる場所を作ってほしい。

【市長】

ボール遊びができる場の一つのアイデアとして、例えば、総合センターの跡地や寝屋川市駅前のアドバンス寝屋川の屋上等の活用が考えられる。

市として決定している事項ではないが、将来的に老朽化した施設を複合化や集約化していくことで、残った土地を活用し、市の東西南北にボール遊びができる場を整備することもできると考えている。

また、市では多くの都市公園を設置しているが、全ての世代が満足するように作られているため、結果として各世代の満足度は十分ではない。それぞれの公園に、シルバー世代向け、子ども向けといった役割を持たすことで、既存の施設を最大限に活用し、満足を高めていくような公園を検討していきたい。

学校教育について

【市民】

市のディベート教育等の思考力、判断力を育む教育に、今後も力を入れ、子どもたちが豊かに生きることのできる教育を進めてほしい。

【市長】

子育て世代に選んで頂くまちになるため、教育の改革を進め、一つのブランドを作っていこうと考えている。

市では小学校4年生から中学3年生までの6年間、週1回ディベート授業を実施し、自分の意見や考え方をもち、相手の考え方を尊重し合うなど、

様々な環境の中でも将来、力強く生きていける子どもを育てていこうと考えている。

この取組を本格的に実施して2年ほどだが、成果が出てきている。引き続き、教育環境を確保し、市のPRにつなげたいと考えている。

今後の学校教育について

【市民】

子どもたちの教育をよりよくしていくため、ディベート教育のほかに考えていることはあるのか。

【市長】

探究型を一つの柱にしながら、0歳から15歳までの子どもがしっかりと精神的に自立できる取組を進めている。

また、現在、就学前の0歳から5歳までの就学前教育・保育プログラムの作成を専門家の意見を頂きながら進めている。

プログラムの完成後は、小学校1年生から3年生までを対象とした探究型の授業等を導入できないか、教育委員会と意見交換を行っている。



ライブ配信を撮影している様子

中央図書館について

【市民】

中央図書館の構造について、死角があることが問題視されている。防犯カメラを付ける意見もあるが、読書の自由があるため、防犯カメラの設置は慎重に判断すべきと考えている。市長はどう考えているのか。

【市長】

図書館に限らず、防犯カメラについては、映りたくない等の権利があるが、市民の安全、住みやすさを確保するため、必要な場所には設置をしている。

中央図書館の在り方については、好評の声を頂いており、旧中央図書館と比較して多くの方に利用していただいている。

図書館の在り方が時代と共に変わっていく中、中央図書館が新たな価値を提供しており、一つの大きな役割を果たしていると考えている。



寝屋川市駅前にオープンした中央図書館

新型コロナウイルス感染症への対応について

【市民】

市では難しいことかもしれないが、過去と比較するとウイルスの性質も変化しており、現在の指定感染症2類を5類に変更してほしい。現在の2類では発熱してもかかりつけ医に診てもらえず、生活に不安を感じている。

【市長】

市が単独で感染症法の位置付けの見直しを行うことは難しいが、様々なケースを想定し、感染状況を見ながら、市民が安心して生活しやすくなる取組を進めていきたいと考えている。

第3回 南コミュニティセンター



小中一貫校について

【市民】

小中一貫校の建設に伴い、地域のまちづくりが進められることで、これまでの景観、まちの姿がなくなっていく。今後、地域住民にはどのような説明をしていくのか。

【市長】

長い時間をかけて、地域や PTA の皆さんと協議をしながら、小中一貫校の開設に向けた計画の策定を進めてきた。寝屋川公園駅周辺は人口が減少し、バスの本数が減っている中、行政としては、地域住民の方に長く便利に住み続けてもらうことが重要だと考えている。その一つの策として、小中一貫校の建設を行うこととした。こうした取組が、現在、周辺の地価に影響するとともに、学研都市沿線の人口増加につながっている。

懐かしい風景は少しずつ変わってしまうかもしれないが、住みやすいまちになるよう、様々な意見を聴きながら、まちづくりを進めていきたい。

日 時：令和 4 年 10 月 27 日 木曜日 参加人数：56 人



防犯カメラについて

【市民】

- ・ 防犯カメラの設置における、市と警察の役割の違いはあるのか。
- ・ 今後も防犯カメラについては増設していくのか。

【市長】

防犯カメラは設置箇所により、自治会、警察、行政、民間企業がそれぞれ設置している。

市が設置している防犯カメラは、映らない権利等の理由から設置について否定的な意見もあるが、犯罪の抑止効果の向上や体感治安を改善していくため、地域の皆さんの意見を聴きながら必要な場所に設置していきたい。

現在、設置数の目標は達成したため、一度に多くの設置は考えていないが、少しずつ必要な場所に設置していく。

萱島地区のまちづくりについて

【市民】

- ・ 萱島地区の発展のために都市計画道路の整備をしてほしい。
- ・ 若者世代に住んでいただくため、教育と医療に力を入れてほしい。

【市長】

まちづくりは、しっかりとしたコンセプトを持って行う必要があり、ハード面を整えるだけではまちは出来上がらない。

萱島駅周辺の整備については、庁内で新たなチームを作り、他の地域にはない新たなコンセプトについて議論を行っている。地域の皆さんの意見を聴きながら、今後、まちづくりのコンセプトを示していきたい。

道路については、萱島讃良線を整備する方向で考えている。道路整備については、優先順位を付けて行っており、現在、寝屋川市駅西側の対馬江大利線を整備している。令和6年度の完成後、萱島讃良線の整備について具体的に検討していくことを考えている。

医療については、市内に個別の医療機関が多数あり、中堅規模の病院は14か所ある。加えて、関西医科大学香里病院といった大学病院と協力しながら、医療機器、医療関係のネットワークを形成している。

本市の面積や人口規模でこれだけの数の医療機関があるのは、医療インフラとして大変優れていると考えている。一方、夜間の小児救急や産婦人科等の分野については、これからのテーマとして検討していく必要があると考えている。

高齢者の外出援助サービスについて

【市民】

高齢者の外出援助サービスのボランティアの高齢化が進んでおり、担い手が不足している。市として、事業の在り方をどのように考えているのか。

【市長】

シルバー世代の方が住みやすいまちとするためには、外出援助サービスを含め、多くの市民の協力が必要だと考えている。市民が住み慣れた地域で住み続けていくため、どのようなインフラが必要で、市がどれだけの支出をしていくのかなど、多くの課題がある。

外出援助サービスの在り方については、どうすれば市民の協力が得られ、持続可能な制度となるのか、更に踏み込んで考えていきたい。

交通ルールについて

【市民】

信号機の無い横断歩道の前で一時停止をしない自動車が多く、危ない道路がある。南小学校に通学する児童も歩行しているため、行政として安全対策を講じてほしい。

【市長】

通学路の安全確保については、市、教育委員会、警察で協議を行い、警察に取締りをお願いしているが、現状は「いたちごっこ」になっている。

実は交通違反以外にも不法投棄等の多くの問題を抱えている。これらの問題を取り締まるため、監視員の設置だけでも多額の費用が掛かる。

子どもの安全を守らなければならない通学路は、コストを掛けてでも、ガードレールの設置、ルートの変更等の対策をすべきと考えている。それ以外の道路については、どこまでコストを掛ける必要があるかも含めて検討していく。

青色パトカーについて

【市民】

各小学校に設置されている青色パトカーについて、運転手の高齢化が進行している。また、パトカーについては、長期に渡って使用していることから、老朽化が進んでおり、故障した場合など、今後の対応はどのように考えているのか。

【市長】

運転手の高齢化が進む中で、今後の担い手確保については、課題であると考えている。現在、小中学校の夏季・冬季休業期間等の夜間帯には、民間企業に委託を行い、青色パトカーを走らせている。民間企業の力を借りながら、運用していくのも一つであるが、地域のことは地域に住む方が一番把握しているため、地域住民の協力を得ながら実施する方がより効果的だと考えている。

青色パトカーに限らず、自治会等の地域コミュニティについても高齢化に伴い、担い手がおらず負担が増えている状況のため、行政としてサポートや費用負担の在り方について議論していく必要があると考えている。



寝屋川市内を走る青色パトカー

災害時の自助について

【市民】

自治会も高齢化が進む中、災害時に市民の命を守るため、行政と市民が一層連携していく必要がある。災害等の緊急時の対応についてしっかり考えてほしい。

【市長】

これから40年の間に90パーセントの確率で南海トラフ地震が起これと言われている。地震発生により、公助が届かない可能性があるため、地域の皆さんの自助に頼らないと行けない場面も出てくる。例えば、倒壊した家屋から地域の皆さんが助け合い、救助ができるように、避難所にチェーンソー等の備品を備えている。

備品の内容を踏まえ、運用等について市民の皆さんと命を守る取組を協議していく必要がある。

また、令和元年に市内の各中学校の体育館にエアコンを設置した。このエアコンは、災害時に都市ガスを遮断して、プロパンガスに切り替えることができる仕組みのため、電気が遮断された場合も、プロパンガスを利用することで、エアコンが使用可能となる。

この取組はジャパン・レジリエンス・アワードを受賞し、先進的な取組として、全国の自治体から注目されている。



受賞したジャパン・レジリエンス・アワード

第4回 西北コミュニティセンター



公園のトイレについて

【市民】

木屋元町公園のトイレを水洗化してほしい。また、日常的に公園内の雑草の手入れがされていないと感じる。今後の公園整備について聞きたい。

【市長】

現在、トイレ自体が設置されていない都市公園が半数以上あるため、今後、都市公園全体の在り方と合わせて、トイレの設置や水洗化を検討していきたいと考えている。

また、現在の都市公園は、全ての世代に満足するように整備されているため、各世代の満足は十分ではないと考えている。その対応策として、それぞれの公園にシルバー世代向けや子育て世代向けといった役割を持たせることで、世代ごとの公園の満足を高めていくことができると考えている。

日 時：令和４年１１月８日 火曜日 参加人数：５４人



市の財政について

【市民】

市の収支決算はどのような状況なのか。なお、収支決算が赤字の場合、どのような対策を行っていくのか。

【市長】

寝屋川市は過去に赤字日本一となり全国的にも報道されたため、財政事情が厳しいイメージが残っている。

しかし、財政状況を判断する指標の一つである経常収支比率は、令和２年度、３年度において大阪府内でも良い状況であり、市の貯蓄である基金積立額は、計画的に基金を積み立てていることで、コロナ禍においても右肩上がりに増加している。

治安について

【市民】

- ・ 令和元年度のタウンミーティングにおいて、市内の落書きを消していくと話されていたが、減っていないと感じる。タバコのポイ捨ても多い。
- ・ 夜間は暗い場所が多いため、街灯を増やし明るいまちにしてほしい。

【市長】

落書きの除去については、ハインリッヒの法則の一例であり、1件の重大犯罪には、29件ほどの軽微な犯罪があり、その水面下には300件ほどのモラル違反が発生していると言われている。

寝屋川市で発生する犯罪件数は、大阪府内の中で突出してないものの、全国ニュースで報道される重大事件が起きたことが、市民の体感治安の低下につながっていると考えている。

現在、歩きタバコ、ポイ捨て等を減少させるため、条例を制定し、駅周辺や公園にタバコ禁止エリアを指定するなど、厳しく取締りを行っている。街灯の増設については、全ての場所への設置は難しいが、自治会の皆さんの意見も聴きながら、本当に必要な場所に設置していきたいと考えている。

道路について

【市民】

住みよい、美しいまちにしていくため、道路の整備は大事な要素だと考えている。道路の老朽化への対応を進めてほしい。

【市長】

子育て世代に選んでいただくまちとなるため、住環境の整備は重要と考えている。地域の皆さんの意見を聴きながら補修が必要な道路には適切に対応していきたい。

住環境も大事だが、子どもの教育環境等のソフト面にも注力するなど、限られた財源を活用しながら、新たな価値を創出していきたい。

地域の集いの場について

【市民】

香里園地域に気軽に集える施設がない。かつては、男女共同参画推進センターやふれあいプラザがあったが、高架事業に伴い、移転、閉館してしまった。香里園地域に集いの場を作ることとはできないのか。

【市長】

市として決定している事項ではないが、香里園エリアの公共施設の在り方については、高架事業に伴い、高架下を積極的に活用していくことを考えている。

今後、様々な市民サービスを「ターミナル化」推進計画として寝屋川市駅周辺に集約しながら、市内のどこからでも行きやすい環境を作っていこうと考えている。

また、寝屋川市駅前のイズミヤのビルの5階を市が取得しているため、一つの利用のアイデアとして、貸会議室、展示会など、市民の活動拠点として整備することも検討している。



京阪本線 立体交差事業「香里園駅」のイメージ

学校給食時間のパーティーションについて

【市民】

現在、学校給食は新型コロナウイルス感染症対策のため、白色のパーティーションを立てて食べている。友達の間を見ながら給食を食べることも食育の一つだと思う。パーティーションの設置について見直しすることはできないのか。

【市長】

パーティーションの設置を含めて、黙食の対応については、国や大阪府の方針に基づき行っている。

そのような中、対策の緩和については、市独自で専門委員会を組織しておらず、緩和できる根拠がないことから難しいと考えている。今後の対応についても、国や府の動向も踏まえて、対応していくことになる。

※ 市長の回答内容は、タウンミーティングを開催した令和4年10月又は11月時点のもので、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けは2類に指定されている状況

小中学生の不登校について

【市民】

小中学校の不登校や学校に馴染めていない児童・生徒への支援について考えていることはあるのか。

【市長】

市では児童・生徒に電子タブレットを配布し、全国に先駆けてオンライン授業を導入した。これは本来、コロナの影響でクラス休業になった場合に活用する目的で導入したが、本市ではこの仕組みを活用して、不登校の児童・生徒に授業の様子を配信できると考えた。

不登校児童・生徒約150人に対し、オンライン授業の申込みを募ったところ、約50人から申込みがあり、クラスの雰囲気を見ながら、画面上で授

業を受けれるようになった。現在、この仕組みを応用して、長期入院で学校に通えない児童・生徒が授業を受けれる取組を進めている。

寝屋川市感染者等感染拡大防止協力支援金について

【市民】

家族が令和4年2月に新型コロナウイルスに感染したが、感染者等感染拡大防止協力支援金が廃止されたため、受給できなかった。議会で予算が認められなかったから支給できないということは納得できない。

【市長】

新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者は自宅待機となり、行動が制限されるため、支援の一つとして給付金の支給を行っていた。

オミクロン株の流行により感染者数が大幅に増加したことで、当初想定していた予算額を大幅に超えることになった。市としては、しっかり支援していくため、議会にお願いをさせていただいたが、議会にも様々な考えがあり、結果として予算が認められなかった。

各種サービスの実施に当たっては、引き続き、議会に対し丁寧な説明を行い、理解して頂けるよう努力していく。

第5回 東コミュニティセンター



市政について

【市民】

市長に就任してからこれまでの約4年間において、市長が掲げた目標は、どの程度達成できているのか。

【市長】

任期4年間の中で想定していたことについては、7割から8割程度は達成できているが、将来想定しているまちの未来像からすると、3割程度の達成と考えている。

学研都市沿線については、小中一貫校を中心に開発を進め、周辺の地価の上昇、人口の増加等につながっている。

教育については、小学校の授業からディベート教育を導入し、子どもたちの考える力を育てている。

日 時：令和 4 年 11 月 10 日 木曜日 参加人数：24 人



高齢者の孤独死について

【市民】

単身高齢者の孤独死について、死後数週間経って発見されるケースが多い。例えば、単身高齢者の自宅トイレに人感センサーがついた wi-fi 装置を設置し、地域包括支援センターや高齢介護室で一元的に管理することで、異変があった世帯を把握できる仕組みを作ってはどうか。

【市長】

人口が少ない自治体では、試験的に導入しているところもあるが、ランニングコストが課題である。何か別の方法があるのか等も含めて検討していきたい。

一つの考え方として、現在、低学年の小学生に支給している GPS 端末は、通常のサービスより通信料を抑えて使用できる仕組みを導入している。この仕組みを活用して、安否確認を行うことができればと考えている。

保育所への対応について

【市民】

認定保育園に通う子どもが、職員の不注意で大やけどを負う事故があった。今回の事故について、市長は知っていたか。また、市からの報道提供は、前例がないため行わないと言われた。報道提供を求めているわけではないが、できない理由として適切なのか。

市が定期的に保育園や幼稚園に出向き、運営等をチェックする仕組みはあるのか。

今後、同様の事故が起きないように、危機事象を寝屋川市内の保育園等で情報共有する仕組みが必要ではないか。

【市長】

事故については、担当課から報告を受けており、担当課から保育園に対し厳しく指導を行った。

報道提供については、市の責任で実施しているものは、積極的に報道提供を行っているが、民間が運営する保育園の場合、市の判断で公表するのは難しい。しかし、「前例がないため報道提供できない」ということは理由ではない。

市において、指導や監査を行うことはあるが、寝屋川市内に限らず、全国の過去の事故を研究する中で、何か対応指針を示すなど、保育園等に注意を呼びかける仕組みが必要と感じている。

危機事象について、ほかの園でも共有がされないと、同様の事故等が起きってしまう可能性があるため、今回の事故を一つの事故で終わらせるのではなく、事故を起こさないための仕組みをしっかりと作っていききたい。

災害時の備蓄について

【市民】

災害備蓄について、避難所の備品は配備されているが、どこに何が置いてあるのか分からない。防災備蓄センターに備品が保管されているが、災害時に備蓄センターまで取りに行くのは困難だと思う。災害時の備蓄の保管方法について検討してほしい。

【市長】

備蓄については、災害の大きさにもよるが、災害時からの数日分を常備し、その後は、自衛隊等の応援物資で対応ができると考えている。

それよりも重要なことは、命を守る取組である。

例えば、震災直後、家屋の倒壊等で救助が必要な場合、すぐに公助が届かず、自助に頼らざるをえない場面も出てくる。そのような場合に備え、地域の皆さんが助け合い、命を守る事態を想定し、チェーンソー等の備品を備えている。

また、避難場所に感染予防のため空間を区切るためテントを購入したが、これは屋内だけではなく、避難所が満員となった際、雨風をしのげるよう屋外でも活用できることを想定したものである。



各避難所に配備している救助用資機材

子育て世代の集いの場について

【市民】

- ・ 学研都市沿線に子育て世代が集える場所がない。他市の取組では、市が地域ごとに妊婦を集い交流する場があると聞いた。未就学児の親に向けた取組は考えているのか。
- ・ ランバイクチームに携わっており、保護者同士のコミュニティの場になっている。市と共同でイベントができればと考えている。

【市長】

寝屋川市駅はリラット等の施設が充実しているが、学研都市沿線は子育て世代の拠点がないたため、地域や子育て世代の拠点があってもいいのではと考えている。

現在建設中の小中一貫校の1階に地域交流スペースを作り、子育て世代の皆さんが子どもを遊ばせながら、保護者同士で交流できる場を検討している。このスペースを活用し、リラットやこどもセンターからの出前講座を行うことも可能と考えている。

ランバイクについては、寝屋川市に自転車の駅があるため、ランバイクとの親和性があり、施設内のコースを使いながら子どもたちが安全に体験できるイベント等が検討できるのではと考えている。



リラットで開催しているイベントの様子

ため池について

【市民】

秦町の新宮池は大阪府の防災ため池に指定されていないが、市として災害時を想定した対策はできないのか。また、堤防敷の里道に穴が開いているため対応してほしい。

【市長】

防災ため池の指定については、大阪府が一定の要件に基づき認定するため、新たに防災ため池として認定するのは難しい。

寝屋川市にはため池が多く、リスクがある場所については、国や大阪府と協議をしながら整備している。新宮池については、要件に該当しないため、市が関わることは難しいが、新たなまちづくりの在り方として、周辺地域の開発等を検討することになれば、市として関わっていくことは可能と考えている。

里道の管理等については、地域の意見を聴きながらしっかり対応していく。

第6回 東北コミュニティセンター



公園駐車場料金の無料化について

【市民】

寝屋川市内の公園駐車場を無料にすることで、シルバー世代がこれまで以上に公園を活用され、健康増進や医療費削減につながるのではないかと。終日無料が困難であれば、時間帯に応じて無料化するなどの検討をしてほしい。

【市長】

打上川治水緑地の公園には駐車場がなかったが、令和2年度に市営駐車場を設置した。駐車場料金は市の貴重な財源のため、無料化した際の費用対効果など、様々な判断基準から検討していく必要がある。

日 時：令和 4 年 11 月 14 日 月曜日 参加人数：56 人



図書館の雑誌オーナー制度導入について

【市民】

他の市町村で導入されている雑誌オーナー制度を導入してほしい。同制度は、市民や企業等の団体が雑誌の年間購読料を負担する代わりに、雑誌のカバーにオーナーの名前や広告を掲載し、宣伝・PR ができるというもの。図書の充実にもつながるため、導入を検討してほしい。

【市長】

市のコストの削減や様々な方が図書館に関わるきっかけになると考える。制度について研究をした上で導入の検討をしたい。

河川の整備について

【市民】

河川に伸びた雑草やごみが多く、そのまま放置されている。河川の浚渫を含め、整備を進めてほしい。

【市長】

草刈り等はボランティア団体など、市民の皆さんが協力して対応している場所もある。浚渫について、大阪府が管理する場所は、大阪府に要望を行っており、河川の状況を見ながら順番に作業が行われている。引き続き要望を行っていく。

福祉施設等の利用者に対するいじめについて

【市民】

福祉施設等の利用者に対する差別やいじめへの対応を行ってほしい。

【市長】

介護や障害関係の事業所への対応については、指導監査課が行っており、通報や報告があった事業所へ指導・監査を行った結果、処分となり認定取消になる事例もあった。

いじめ等が疑われる事業所等について、報告を頂ければ、指導の必要性など含めて調査を行う。

自転車マナーについて

【市民】

市民の自転車マナーが悪いと感じる。交通規則を知らない人も多いのではないかと。小学生から自転車マナーの教育に力を入れてほしい。

【市長】

子どもに対しては、交通安全のマナー教室を行っているため、比較的交
通ルールを守っている子どもが多く、そのほかの世代の交通違反が多いと考
えている。

講習会を開催すると意識の高い市民は出席するが、本来、講習が必要と思
われる市民が出席しない可能性が高い。

市広報誌にて自転車の交通ルールの特集を掲載するなど、市民に対して
呼びかけを行うことも検討したい。



公園について

【市民】

寝屋川市の各地域に公園を作ることとはできないのか。

【市長】

各地域への公園設置は、地域の皆さんから要望はあるが、設置場所がなく難しいため、寝屋川市全体の公園の在り方を見直す必要があると考えている。例えば、南寝屋川公園は近隣のイオンモールなどの民間企業の力を借りることで、子育て世代も利用しやすい公園にできるのではないかと考えている。

また、アイデアとしては、総合センターの跡地や香里園駅の高架化に伴う高架下スペース、アドバンス寝屋川の屋上などを活用することで、スポーツができる場を設置することが可能と考えている。

寝屋川市内の都市公園は、全世代の満足を目指した公園であるため、各世代別の満足は十分ではない。都市公園の在り方として、シルバー世代向けや子育て世代向けなどの役割を持たせることで、今ある資源を有効活用しながら、公園の利用率を高めることができると考えている。

通学路の標識等について

【市民】

子どもの通学路について、道路の停止線が消え、標識に木の枝等がかかり、見えにくい場所がある。ドライバーの交通違反も目立つため、道路標示等の整備をしてほしい。

【市長】

通学路については、優先的に対応しており、地域の皆さんの意見を聴きながら、より安全な通学路となるよう対策を続けている。

車の交通違反については、警察が取り締まりを行っているが、該当地域が多く、いたちごっこのような状況となっている。

子どもたちの事故につながる可能性を想定しながら、教育委員会と連携し、しっかり対策を考えていく。



新型コロナウイルス感染者に関する情報発信について

【市民】

市から新型コロナウイルス感染者の情報発信がなくなったことで、以前より市民の感染症に対する緊張感が薄れてきていると感じる。過去にSNS等で発信していた感染者の情報発信について、再開を検討してほしい。

【市長】

感染者数について、国が全件把握を見直す方針を示したことから、情報発信についても終了した。

感染状況の大幅拡大や重症化、死亡者数の傾向を見ていく中で、情報発信の在り方を検討するとともに、市民の皆さんへ必要な情報については、適宜、様々な媒体を通じて発信していく。

シルバー世代の生きがい等について

【市民】

愛知県に、レストラン、銭湯等の設備が備わった介護施設を高齢者が中心となって運営している複合施設がある。高齢者の生きがいやまちおこしにつながっており、寝屋川市でもそのような施設を設置することはできないのか。

【市長】

寝屋川市はシルバー世代が多く、どこの地域からでも集まりやすいコンパクトな市であることから、面白い取組だと思う。

学校教育の在り方について

【市民】

学校教育について、行政がどこまで関わるができるのか知りたい。

【市長】

行政と教育委員会はそれぞれ独立しているため、行政は教育内容について関わることはできなかったが、法改正により、総合教育会議を通じて、行政の意見を反映できるようになった。また、いじめ問題については、教育環境と位置付けることで、市が教育委員会と連携し対応している。

最終的に子どもたちがどのように成長していくのかが重要と考えており、今後も総合教育会議を通じて、市の考えを伝えていく。

性教育について

【市民】

学校における性教育の重要性についてどう考えているか。

【市長】

現在、助産師が中心となり、性教育の取組を進めていただいているが、家庭ごとに性教育に対する考え方が異なるため、学校で取組を進めるには少し慎重に扱う必要がある。

文部科学省が定める性教育の基準以上に踏み込み、実施していくかは各学校長の判断に委ねられている。

小学生から踏み込んだ性教育については、各家庭の教育方針等を考えると難しいが、中学生以降の性教育の在り方については、助産師の専門知識を活用しながら進めていくことも考えていきたい。

災害時の避難場所、備蓄について

【市民】

災害時の避難場所について、私立学校とも積極的に連携してほしい。

【市長】

現在の状況を確認した上で、必要に応じて連携をしていく。

今後、南海トラフ地震が40年の間に90パーセントの確率で発生されている。地震発生後、家屋の倒壊、火災等が発生する可能性が想定されるが、公助が間に合わない可能性があるため、地域の皆さんの自助に頼らざるをえない場面も出てくる。こうした事態に備え、避難所にチェーンソー等の備品を準備している。

また、中学校体育館に設置しているエアコンは、災害時に都市ガスや電気が遮断された場合、プロパンガスに切り替えることで電源の供給が可能となる。

市の財政状況を見ながら、小学校体育館へのエアコン設置を検討していくことになるが、現状は、シルバー世代、妊婦など、エアコンが必要な市民を中学校に移動していただき、避難生活を過ごしてもらうことを想定している。



災害時にプロパンガスに切り替えができるエアコン

Ⅲ 参加者アンケート結果

Q1 あなたの性別をお答えください。

設問	人数	割合
男性	181 人	58.8%
女性	125 人	40.6%
答えたくない	0 人	0.0%
無記入	2 人	0.6%
合 計	308 人	100%

Q2 あなたの年代をお答えください。

設問	人数	割合
10 歳代	2 人	0.6%
20 歳代	4 人	1.3%
30 歳代	8 人	2.6%
40 歳代	16 人	5.2%
50 歳代	27 人	8.8%
60 歳代	74 人	24.0%
70 歳代	134 人	43.5%
80 歳代以上	43 人	14.0%
合 計	308 人	100%

Q3 今回のタウンミーティングのことをどうやってお知りになりましたか。（複数回答可）

設問	件数	割合
家族・友人・知人から聞いて	141 件	38.2%
市広報誌・地域情報誌を見て	106 件	28.6%
公共施設にあるチラシを見て	32 件	8.6%
Twitter を見て	21 件	5.7%
市ホームページを見て	20 件	5.4%
無記入	1 件	0.3%
その他	49 件	13.2%
合 計	370 件	100%

※ その他（地域協働協議会、民生委員児童委員協議会など）

Q4 市長が話した内容について。（どれか一つ）

設問	件数	割合
満足	90 人	29.2%
やや満足	94 人	30.5%
ふつう	77 人	25.0%
やや不満足	4 人	1.3%
不満足	0 人	0.0%
無記入	43 人	14.0%
合 計	308 人	100%

Q5 タウンミーティングの時間について。(どれか一つ)

設問	人数	割合
長すぎる	0 人	0.0%
少し長い	12 人	3.9%
ちょうど良い	208 人	67.6%
少し短い	42 人	13.6%
短すぎる	4 人	1.3%
無記入	42 人	13.6%
合 計	308 人	100%

Q6 タウンミーティングの開催曜日と開催時間帯は、次のどれが良いですか。
(どれか一つ)

設問	人数	割合
平日の午前中（10 時～12 時）	11 人	3.7%
平日の午後（13 時～15 時）	24 人	7.7%
平日の夕方（15 時～17 時）	11 人	3.7%
平日の夜（17 時～19 時）	127 人	41.4%
土日祝の午前中（10 時～12 時）	26 人	8.3%
土日祝の午後（13 時～15 時）	24 人	7.7%
土日祝の夕方（15 時～17 時）	19 人	6.2%
土日祝の夜（17 時～19 時）	42 人	13.6%
無記入・その他	24 人	7.7%
合 計	308 人	100%

※ その他（何時でもよい。今回のタウンミーティングと同時刻など）

Q7 今回のタウンミーティングに参加して良かったと思いますか。（どれか一つ）

設問	人数	割合
とても良かった	66 人	21.4%
良かった	170 人	55.3%
ふつう	50 人	16.2%
あまり良くなかった	5 人	1.6%
良くなかった	3 人	1.0%
無記入	14 人	4.5%
合計	308 人	100%

Q8 今後もタウンミーティングがあれば参加したいと思いますか。（どれか一つ）

設問	人数	割合
ぜひ参加したい	98 人	31.8%
都合がつけば参加したい	198 人	64.4%
あまり参加したくない	6 人	1.9%
もう参加したくない	1 人	0.3%
無記入	5 人	1.6%
合計	308 人	100%

IV 參考資料

I 市長と語ろう タウンミーティング PR チラシ

広瀬市長 

と語ろう 

寝屋川市民と市長の
タウンミーティング



対 象：寝屋川市在住の方

（お子様の一時預かりを希望される方は、事前に下記QRコードからお申込みください。）

持ち物：1 参加用紙等（氏名、住所、電話番号、当日の体温を記載したもの）
2 靴袋

事前申込不要

10/19	水	西南コミセン （上神田一丁目30番1号）	11/8	火	西北コミセン （松屋町20番30号）
10/25	火	西コミセン （葛原二丁目7番1号）	11/10	木	東コミセン （高宮新町32番2号）
10/27	木	南コミセン （下木田町16番50号）	11/14	月	東北コミセン （成田町3番3号）

各会場 午後7:00-午後8:00（受付開始：午後6時30分）

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を踏まえ、開催を中止する場合があります。
その際は、市ホームページ等でお知らせします。

当日の詳細は
こちら



キリトリ線

◆ 参加用紙（皆様の健康と安全を確保するため、事前に御記入の上、参加してください。）

参加者氏名	住 所	電話番号	当日の体温

【お問合せ】寝屋川市 経営企画部 企画二課 Tel 072-825-2019

2 当日参加者にお配りした資料

これからの市役所は

市民の事情 ^{だいなり} > 行政の都合

寝屋川市 これまでの 主な取組

R4 タウンミーティング資料

市民の命と生活を守る(新型コロナウイルス感染症への対応)

- ◆ 1日3食の配食サービス、買い物サービスの実施
- ◆ 水道料金(基本料金)の免除 R2:4か月分、R4:4か月分
- ◆ 介護従事者等へ定期的なPCR検査の実施(2週間に1回のスクリーニング検査)
- ◆ 身近な場所での新型コロナワクチン接種の推進(市内医療機関に加え、市立中学校等を接種会場として実施)
- ◆ 小・中学校、保育所等(R2.6月~12月、R4.8月~R5.3月)の給食費無償化
- ◆ 市内事業者の支援等を行い、地域経済の活性化につなげる「寝屋川ギフト事業」※の実施

※ 市内店舗で購入した5,000円のレシートを一口として応募し、抽選により市民5万人に総額約5億円相当の商品が当たる事業

市民を第一に「市民の事情」に寄り添った市役所へ

- ◆ 仕事前、仕事終わりにも手続ができる8時~20時の12時間開庁窓口の実施
- ◆ 「市民をお待たせしない」をコンセプトに、季節ごとに変動する手続の増減に柔軟に対応する「可変型窓口」の導入
- ◆ 職員1人で様々な窓口業務に対応するため、他部署への異動がない「窓口専門職員」として、航空会社・ホテル等での接客経験者を採用
- ◆ 市民が移動することなく、複数の手続ができる市民・窓口職員・関係課職員の三者同時コミュニケーションツールの導入



▲三者同時コミュニケーションツール

市役所を利便性の高い駅前に(市民サービスのターミナル化)

各地域からアクセスしやすい市域中心に位置する、寝屋川市駅前の旧大阪電気通信大学駅前キャンパスに、利用頻度が高い市役所窓口を集約するとともに、子どもの健診会場を備えた「(仮称)駅前庁舎」を開設

※ 令和5年度オープン予定

(仮称) 駅前庁舎(旧 大阪電気通信大学駅前キャンパス) ▶



本をより身近に 新中央図書館の開館(図書館の流通を推進)

- ◆ 大阪府北部地震により、閉館を余儀なくされた中央図書館を市駅前に再構築
書架、閲覧スペース、カフェスペース 等
- ◆ 最寄りの郵便局で予約した本の受取、返却が可能な「図書配送サービス」の実施
- ◆ 中央図書館における図書を学校図書館への流通を促進



▲新中央図書館のエントランス

全国から注目される 市独自の「いじめ防止対策」

- ◆ 従来の学校における「教育的アプローチ」に加え、監察課が**いじめの初期段階**から積極的に事案に関与（**行政的アプローチ**）
- ◆ 告訴・訴訟の手続支援及び弁護士費用の補助を行う「**法的アプローチ**」により、いじめ事案の解決を図る。

学校生活をより充実したものに

子どもたちが将来、自らが身に付けた力を活用し、感性や創造性を最大限に発揮するため、「考える力」「生き抜く力」を育むとともに、市民ニーズに寄り添った、寝屋川市だから学ぶことができる特色ある「寝屋川教育」を目指す。

【主な取組】

- ・ **就学前教育・保育プログラム**の作成
- ・ **施設一体型小中一貫校**の開校に向けた取組
- ・ 市内中学校の給食を「**温かい給食**」に改善（令和元年度）
※ 小学校の給食調理場等で調理した、**更においしく温かい給食**の提供（令和5年度）
- ・ コロナ禍による家庭の事情に寄り添う、**選択登校制**※1の実施
- ・ 不登校、通院等で通学できない児童生徒に対し、**ライブ授業**を配信
- ・ 災害時等に保護者へ寄り添う、**自主登校園制度**※2の実施
- ・ 長期休業期間中における留守家庭児童会の**受入時間を繰上げ**

※1 コロナの感染不安等を理由に、市立小中学生の登校がライブ配信による自宅学習を選ぶことが可能

※2 台風による暴風警報等で小学校が休業となり、仕事等で子どもの面倒を見られない場合、学校で子どもを預かることにより保護者の負担軽減を図る。



▲ 温かい給食の導入

「子育てしやすい」を実感

妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を行い、子育て世代の負担軽減を図るとともに、子ども一人一人の健やかな成長につなげる。

【主な取組】

- ・ 年間を通じた**待機児童ゼロ**（平成30年度～）
- ・ **多胎児家庭の育児**を応援（多胎児家庭へのタクシー乗車券の交付 等）
- ・ 市内全域の保育所等でおむつの**持ち帰りを不要**に（バイバイおむつ事業）
- ・ 子どもの健康を**受動喫煙から守る**（条例の周知・啓発、コチニン値測定 等）



▲ 路上喫煙禁止区域を知らせる看板（京阪青里園駅）

シルバー世代の暮らしを支える

- ◆ シルバー世代等の公共交通の利用促進を図る、路線バスを活用した**バス利用券の配布**
※ 通常230円が現金100円で利用可能
- ◆ 公共交通空白地での移動手段を確保する、「**乗合い事業**」の実施（成田地区、仁和寺地区、河北地区）

市民・まちを守る

- ◆ 停電時でも避難所（中学校体育館）のエアコンを稼働させる防災減災対応システムを導入
※ 「**ジャパン・レジリエンス・アワード**」で最優秀賞を受賞
- ◆ 小中学校の夏季・冬季休業期間及び歳末地域安全運動期間の**夜間防犯パトロール**の実施
- ◆ **防犯カメラ2000基**の設置
- ◆ **都市計画道路 対馬江大利線**の整備（令和6年度）に向けた取組



▲ 夜間防犯パトロールの様子

市長と語ろう タウンミーティング 報告書（令和5年1月）

寝屋川市 経営企画部 企画二課

〒572-8555 大阪府寝屋川市本町1番1号

TEL 072-825-2019(直通)

FAX 072-825-0761

URL <http://www.city.neyagawa.osaka.jp>

E-mail kikaku02@city.neyagawa.osaka.jp